

修了生とともに

倉橋節也

ビジネス科学研究科経営システム科学専攻准教授
(くらはし せつや／人工知能)

1. 社会人大学院生の魅力

私が筑波大学の大学院を卒業して数年が経つ。社会人として働きながら夜間の修士課程、博士課程に学び、さまざまな思い出とともに修了した。そこで学んだことは、先生方からの講義や、学会などでの最先端の研究に加えて、もっとも刺激的だったのは、クラスメイトとの議論であった。みな、企業などで活躍している社会人であるだけでなく、働いた後に自らの意志と費用を負担して研究をしようとする強い思いを持った人たち。銀行、証券、電機、情報、広告、ゲーム、牧場経営など業種もさまざま、役職もさまざま、年齢もさまざまであるが、思いだけは同じであった。牧畜用の飼料と、近在の食品会社の生ごみ処理を結びつけて新たな事業を起こそうと必死の努力をしている経営者、インターネットの普及に伴い、企業と顧客の新しい関係をどう捉えなおせばよいかを模索する広告代理店勤務の友人、落ちないロケットを作るために究極のソフトウェア品質を目指す人、いろんな人がい

た。

このような中では、いともたやすく大学の学問の枠を超えた議論、共同研究がスタートする。自分が選んだのもそのひとつであった。企業と顧客の新しい緊張関係を、人工知能の技術を使って解明しようとするものであった。経営学、社会学、統計学、計算機科学が融合して初めて研究が可能となる。なぜ噂がここまで広がるのか、巨大企業を相手になぜたった一人のクレーマーが立ち向かうことができるのか、このような時代に企業にとって適切な情報提供の方法はあるのかなど、多くの議論と実験が繰り返され、共同研究は進んでいった。他にも、株式市場と心理学の関係や、ゆとり教育政策と格差問題の関係など、多くの学際的な研究がスタートしていた。

2. 修了生情報交換サイト

企業から東京キャンパスの教員に転職した今、大学の中のさまざまな壁、慣例、常識の違いを目の当たりにして日々驚きの連続

である。なぜこのような事務処理が必要なのか、なぜこのような会議があるのか。なぜ教員はこのような行動をとるのか。最先端の研究や、とても洗練された業務スタイルがあるかと思うと、意外なほど古風なものも存在する不思議な空間というのが率直な感想である。そのような中で、最近次のようなサイトを立ち上げた(図1)。筑波大学東京キャンパス修了生向けの情報交換サイトである(<http://www.gsbs-tsukuba.org>)。

発起人は、自分を含めた修了生たち10数名。大学に新しい風を吹き込むことができるのは、文科省や教員ではない、ここで学び、卒業し、社会で活躍する修了生たちだ、との思いもある。彼等は、変化の激しい社会の只中で日々仕事に追われながらも、常に興味を持って母校を見てくれている。暖かく、時には厳しい眼差しで。これからどのような研究テーマが必要なのか、筑波大は他大学と比べてどうなのか、これから通う学生にとって必要な教育とは何なのか、筑波ブランドをどう育てるのかなど、多くのことを歯に衣着せず語ってくれる大事な仲間たちである。そういう彼等と共同で立ち上げたこのサイトは、次のような説明で始まる。

「このサイトは筑波大学大学院 経営・政策科学研究科・ビジネス科学研究科を修了された方々の情報交換の場として活用し



図1 修了生情報交換サイト

ていただくことを目的として2007年8月に開設されました。もちろん、現役の学生の方々の利用も大歓迎です。

ニュース：学会やセミナーの開催案内、OB関連の書籍・雑誌の紹介などニュース記事を投稿いただくコーナーです。どんどん気軽に投稿してください。

フォーラム：会員相互の意見交換の場です。眺めるだけでなく、積極的な参加をお願いします。

うえブログ：サイト運営者が不定期に書き綴ります。励ましのコメントをお待ちしております。

ダウンロード：修士論文や博士論文の抄録など、修了者相互の情報交換に必要な資料をダウンロードできるコーナーです。」

3. サイトの目的

このサイトが目指すのは、修了生および現役生・大学を含めた情報交換の場の提供である。例えば、修了生向けの情報交換、修了生および現役生の交流、就職情報・起業情報などの交換、各研究室の専門性を越えた視点の共有、修士論文・博士論文の紹介、ビジネスの最前線からの問題提起、修了生の論文紹介、解決事例報告などである。もちろん、大学にとってのメリットもある。ビジネス界での最新の課題を知ることができ、修了生が企業の中や知人や後輩たちに筑波大学・大学院の最新の魅力を語ってくれ、いつしか入学希望者が増え、人脈が広がり、論文や研究会での資料がデータベース化できる、などである。サイトはいまテスト運用が始まったばかりである。早速、海外の博士課程に進学した修了生から近況を伝える投稿がI氏からなされ、話題を集めている。「筑波大学経営システム科学専攻のOBです。いろんな縁があって、自分ではそんなことはまるで考えてもなかったのに、2007年8月からイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校に留学し、博士取得を目指すことになりました。」彼のこれからの活躍が楽しみである。

4. 私のプロジェクトと夢

自分の研究を考えてみる。最近は、規範、

文化、教育、歴史といった社会現象を、計算機科学を利用してその仕組みや構造を解き明かすことに没頭している。例えば、中国の科挙試験に合格したエリートたちが、どのようにその過酷な試験を乗り越える知識や能力を得てきたのか。家族の役割や構造の変化は、その時代のより大きな社会構造にどのように影響するのか、などである。そこで分かってきたことは、当たり前のことだが、人と人のさまざまなつながりこそが、複雑で多様な社会を作り出しているということである。このような人のつながりの大事さを考えたとき、翻って大学にとってのステークホルダーは誰なのか。それを思うと、社会人である修了生は重要なキーパーソンとなる。また、自分の研究を考えたとき、良質な人の縁を作り出すことは、豊かな社会をもたらす決定的な要因のひとつであり、研究成果の具体化である。そして、大学教育の目的のひとつが、卒業後も自らの意志で知識を深め、社会に貢献するために新たな出会いを自律的に見つけられる人材を育てることであるとしたら、この情報交換サイトから、新たな研究成果や社会貢献が生まれることこそが、私の夢である。